ぴっぴだより

No.4 2019.6.28

セミの声が森いっぱいに響きわたり、黄緑色の葉が目に優しく映る季節になってきました。ぴっぴの森を歩き、深呼吸を繰り返すと、心地良い空気が体いっぱいにしみわたります。そんな場所に身を置いて、子どもたちと共に自然を感じられることはとても幸せですね。

木の下にいると、糸でつながった幼虫がぶら下がっているのをよく見かけます。子どもたちはそれを発見しては、手元に引き寄せて遊んでいる様子。つかまえてじっと動きを観察しては、シャクトリムシの動きを「トン、くにゃり・トン、くにゃ〜り」と表現している子、虫かごに入れて、「飼いたい！何を食べるの？」と聞く子、苦手だけど興味を持って友だちのそばでそっと見ている子など、反応が様々です。どんな形であれ、幼少期からこんなに身近に、生き物と関わりのある生活や経験を重ねていることは、尊いなあと感じます。自分のそばで、小さくとも生きている命にふれることができるのですから。森に生きる生き物たちははかない命ですが、小さなものから大きなものまでどれも大切で、きっと誰かの役に立っています。人間がみんな1人ひとり大切で、どんな人もかけがえのない存在であるように。例えば、微生物が落ち葉を分解してくれて、肥沃な土が作られ、ミミズが土を食べ、モグラのエサになり、キツネがモグラを捕え…といった関係です。また、緑が青々と茂るこの季節、アオムシが生まれ、葉を食べ、鳥の食料ともなってヒナの子育てができるなど…。自然界では、様々な生き物が実に絶妙なバランスをとって成り立っているため、人間もそれを尊重しつつ、生きていきたいものです。自然からもらえる、

わくわくやドキドキを感じながら、自然と人間が仲良くやっていけたら良いですね。

一瞬一瞬を一生懸命に生きている（ように見える）生き物たちと同様に、子どもたちも「今」を生きているのだろうと思います。今、やりたい遊び、今、広がってきている友だちとのつながり、目の前にある夢中になっている光景。そのような大切な時間を子どもたちのペースで過ごし、こちらも一緒に見たり、共感したりできることが嬉しいです。その中で見えてくる子どもたち1人ひとりの見方や考え方がおもしろく、保育をしながらも学ばせてもらっています。子どもたちの素直な姿に関わりながら、心が洗われるように感じる日々です。　　：真理子

自然と友だち　～6月　ウグイスカグラ～

子どもたちが"グミの実"と言ってせっせと探している様子がよく見られました。朝、登園すると同時に新たに赤く熟れた実を探す人。落ちている実にも目をつけ、虫に食べられた跡を上手に避けて口にする人。楽器作りで音を出すために材料にする人。おおくりさんはビールケースを台にして、高い所のものも取ろうと工夫していました。"ぼくの木 わたしの木"としても人気。春に花が咲いている時期には、子どもたちが「蜜が吸えるよ。」と教えてくれました。お誕生日の飾りつけにも大活躍。花は小ぶりで可愛らしく、淡いピンク色をしています。

ウグイスカグラの名前の由来は、はっきり　していませんが、ウグイスがこの実をついばむ姿が神楽を踊っているように見えることなどが一説にあるそうです。ウグイスが隠れることができるくらいに、葉が密に生い茂るのですね。また、ウグイスが鳴き始める頃に花が咲くため、『ウグイスノキ』とも呼ばれるそうです。

：真理子